

授業の視点

- ① 「学び合い」に関すること パターンプラクティス時のグループ構成及びグループ内での生徒同士のか
 かわり合いによる言語活動の充実
- ② 「小中連携に関すること」 パターンプラクティスで慣れ親しんだ音声（小学校）を、文字で表現する
 学習活動（中学校）へ移行する授業展開の工夫

常総市立水海道中学校 第3学年 組 英語科学習指導案

指導者 JTE(T1) 西尾 直美

ALT(T2)

1 単元 Program 2 Volcanoes in Japan (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

2 単元の目標

- 現在完了形の継続及び経験用法を用いて、間違いを気にせずに積極的に言語活動に取り組もうとする。
 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 現在完了形を用いて自分や友達の日常生活や体験的な事柄について表現する方法を正しく身につけ、話したり書いたりすることができる。
 (表現の能力)
- 現在完了形の3つの意味的用法の違いを理解すると共に、聞く活動や読む活動を通してその内容を理解することができる。
 (理解の能力)
- 現在完了形の形 (have / has + 過去分詞) を理解すると共に、日本の火山についての理解を通して、日本の名所や史跡について視野を広げることができる。
 (言語や文化についての知識・理解)

3 学習指導の方針

本単元は、前単元から継続して現在完了形を習得することをねらいとしている。前単元において、現在完了の形は既習であるが、今回は、3通りの意味的用法の違いが明確になる学習活動の工夫や、口頭による十分な反復練習により、現在完了形についてさらに定着させる必要があると考える。

<英語科学習に関する生徒の意識調査> (3年組 35人 4月12日実施)

1 どのような学習活動が好きですか。	話す活動：15人	聞く活動：11人	読む活動：7人	書く活動：2人
2 苦手な学習活動は何ですか。	話す活動：7人	聞く活動：5人	読む活動：5人	書く活動：18人
3 伸ばしていきたい力は何か。	話す活動：6人	聞く活動：8人	読む活動：9人	書く活動：12人

<生徒の実態調査> () 内は正答。【 】内は誤答例

1 過去分詞の品詞 (形容詞)	正答：0人	誤答：28人【動詞】	無答：7人
2 現在完了形の形 (be 動詞+過去分詞)	正答：13人	誤答：7人【過去分詞】	無答：15人

本学級の生徒は、明るく素直な生徒が多く、まじめな態度で学習活動に取り組むことができる。意識調査の結果から、「話す」活動が好きと感じている生徒が多い一方で、「書く」活動に対して、多くの生徒が苦手意識をもっていることが分かる。さらに、「読む」「書く」力を高めたいと感じている生徒が多いことも実態として浮かび上がっている。これらの結果から、小学校で慣れ親しんだ英語の音声と、文字とのつながりの理解が不十分であることが推測される。

本単元の学習においては、現在完了形の3つの意味的用法の違いや活用にもずかしさを示すことが予想される。したがって、学習課題や学習方法を工夫することで、違いを特徴づけた学習活動を展開したい。また、生徒が気軽に話し合ったり教え合ったりすることができるような場や雰囲気を設定し、生徒同士で学習理解を深めていく場面を多く取り入れたい。さらに、本単元の日本の特徴的な自然をテーマにした内容は、6月の修学旅行や本校3学年の総合的な学習のテーマにもつながるため、他領域と連携した学習活動を展開することができるであろうと考える。

4 学習計画および評価計画 (5時間扱い)

次	時	学 習 内 容	評 価 規 準	学 習 形 態	評 価 の 観 点			
					関意	表現	理解	言語
1	1	継続用法を用いて表現活動をする。	継続用法を話したり書いたりすることができる。	個人・ペア	○	◎		
	②	「経験用法をチャンツで身につけよう」 経験用法を用いて表現活動をする。	経験用法を話したり書いたりすることができる。	グル ープ・個人		◎		○
	3	日本の火山について読み取る。	火山の歴史について読み理解することができる。	個人			◎	○
	4/5	日本の文化を紹介する。	紹介文をつくることができる。	個人		◎		○

5 本時の学習

(1) 目標

現在完了形の経験用法について、友達と協力し合いながら話したり書いたりすることができる。

(2) 評価基準と指導の手立て

評価基準	十分満足できる状況(キーワード)	努力を要する生徒への手立て
・経験用法を用いて、話したり書いたりすることができる。 (表現の能力)	・正しい文章表現 ・正しい発音 ・コミュニケーションな態度	・グループワークでの学び合いの場面において、グループ内の学習リーダーと教師による支援を行う。

(3) 準備・資料

ワークシート, シール, タイマー

(4) 展開

◎は視点①について, ★は視点②について

学習活動及び内容	指導上の留意点(・)と評価の視点(◎)	
	JTE (T1)	ALT (T2)
<p>1 あいさつ及びウォームアップを行う。</p> <p>(1) あいさつ (2) ワンフレーズレッスン (3) 不規則動詞の口頭練習</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。 経験用法をチャンツで身につけよう。</p> <p><Target Sentences> A: Have you ever been to the U.S? B: Yes. I have been there. C: How many times have you been to the U.S? D1: No, I've <u>never</u> been there. D2: I have been there () times.</p> <p>(1) パターンプラクティスを行う。 4人組のグループをつくり、提示されたターゲットセンテンスをリズムよく練習する。</p> <p>(2) チャンツゲームを行う。 ①リズムに合わせて、グループごとに元気よくターゲットセンテンスを声に出す。 ②慣れてきたら、Dの部分を声に出すグループは、教師が提示する数字に合わせて表現する(下線部)。</p> <p>(3) 口頭練習した文を書く。 チャンツで練習した表現の音声を頼りに、ワークシートにパターンプラクティスで取り組んだ文を書く。</p> <p>3 クールダウン ワークブックで練習問題に取り組む。</p> <p>4 次時の学習内容を確認する。 現在完了形を用いて、日本を紹介しよう</p>	<p>・基本的なあいさつに加えて、日常生活でよく用いる表現の紹介や不規則動詞の口頭練習を通して、英語学習の雰囲気づくりをする。</p> <p>・課題提示の際には、現在完了形の経験用法の意味を他の用法との意味の違いに注目させながら、理解を促す。 ◎用法や活動方法の説明時にも、生徒とのコミュニケーションを大切にし、意図的に時間を設けて生徒同士が教師の説明を確認し合う場面を設定する。</p> <p>★パターンプラクティスの時には、上手に言えなくても元気に練習している生徒を積極的に賞賛し、音声による反復練習の重要性を生徒に伝える。</p> <p>★上手に言えない生徒に対して、板書したターゲットセンテンスに注目させ、文字をヒントに音声化できるところを伝える。</p> <p>◎学習リーダーを中心に、グループ内で教え合っている様子を積極的に賞賛する。</p> <p>・リズムや速さ、指示の工夫をし、学習活動に変化をもたせ学習意欲を持続させる。</p> <p>◎現在完了形の経験用法について、友達と協力し合いながら話すことができたか。(観察)</p> <p>◎現在完了形の経験用法について、書いて表現することができたか。(観察・ワークシート)</p>	<p>・教師とのコミュニケーションを積極的に行っている生徒にシールを配る。</p> <p>・グループの中に入り生徒と共に活動に参加する。</p>
<p>3 クールダウン ワークブックで練習問題に取り組む。</p>	<p>・本時の学習活動の習熟を通して、練習問題にも取り組むことができるようになったことを賞賛する。</p>	
<p>4 次時の学習内容を確認する。 現在完了形を用いて、日本を紹介しよう</p>	<p>・本時の学習活動への賞賛をする。また、次時の現在完了形を活用し自己表現をする活動への意欲をもたせる。</p>	

Grade: _____ Class: _____ No: _____ Name: _____

現在完了形③ 『経験』 「(今までに) ~したことがある」

☆今日の学習で **input** した表現 (Target sentences) を今度は **output** する。

A: _____ _____ the U.S?
日本語: _____

B: **Yes,** _____.
日本語: _____

A: _____
to the U.S?
日本語: _____

B: **No,** _____ _____.
日本語: _____

B: _____ **three** _____.
日本語: _____

1回:
2回:

今日 学習 文法
授業 分 先生 質問 書

☆Homework

今日の表現を使って、自分や友達の経験談（「(今までに) ~したことがある」をつくってみよう。
(自学ノートに実施。感想なども付け加えるとよい)